

Scale 1/43

#06041

available

08/2020

limited edition 333 Stk.



前後逆向きの車

1959年、ルノーで2つの車両が「Projét 900」という名前で製造されました。それは非常に珍しいデザインをしていました。通常の車の外観の視覚的な「間違い」とでも表現されるものでした。通常フロントとフロントエンドの外観は、長いボンネットが装備されていましたが、このモデルはリアエンドにありました。この逆転した創作を担当したのは、53歳のルノーエンジニアフェルナンド・ピカードでした。彼は4CVとドーフィンを設計した人物です。

フェルナンド・ピカードの手元には、ボディメーカーに作成させたルノー900の2つのボディがありました。1つはGhiaのイタリア人デザイナー、もう1つはフランス人のアンドレ・ダニエルによってデザインされたものでした。3番目となるはずだったロバート・バーソウのデザインは空想の域をこえることができませんでした。どちらの車もV8エンジンがドライブとして機能するという共通点がありましたが、一方のバージョンでは後輪車軸の近くに設置され、もう一方のバージョンではエンジンがフロント

に取り付けられていました。2つの実験車両で正確に何がテストされたかは不明ですが、ルノーのルノーの敷地で広範囲なテストが行われたことが知られています。結果一部のキーワードのみが公表されました。テストは安全面を非常に重要視したようです。しかし、これらのテストは望ましい結果を得ることができませんでした。なによりもこのモデルの弱点は、前輪の真上に前部座席を設置したことによる安全面の懸念を生んでしまったことでしょう。総合的に全体の構造はドライバーに満足のいく安全感をもたらすことができませんでした。どうしても避けられなかったもう1つの問題はトランクでした。トランクは2つの背面ドアからしか到達できませんでした。後部座席を動かせば、荷物の積み込みは簡単にできましたが、この「トリック」でさえ非常に面倒なものと言えました。

結局のところ、その構想が休止になったのは、解決不可能な数々の困難があったからに相違ありません。しかし、これは技術的な観点で捉えたものにすぎません。ともか

く並外れた外観ではありましたが、穏便な言い方をするなら、今日でもその外観に慣れる必要があるということでしょう。

AutoCult GmbH
Äußere Further Straße 3
90530 Wendelstein
Germany

電話番号 +49 / 9129 / 296 4280
ファックス +49 / 9129 / 296 4281
info@autocult.de

www.autocult-models.de